

### 5.5 降灰可能性マップ

富士山山頂で宝永規模の噴火が発生した場合の月別降灰分布図(ドリルマップ)を12ヶ月分重ね合わせ、各地点で最も厚く堆積しているドリルマップの降灰堆積深をその地点の降灰堆積深とし、降灰分付図を作成した(厚さの区分けは2cm、10cm、30cm、50cm)。これにより、富士山山頂で噴火した場合の発生時期を包括した降灰の可能性マップができるが、噴火は富士山山頂だけではなく想定火口範囲で発生する可能性がある。このため上記降灰分布図を大規模噴火火口分布領域に沿って平行にスライドさせ、それらを包括した降灰分布図を作成する。作成した降灰可能性マップを図-5.5.1に示す。

なお、中・小規模の噴火に伴う降灰分布は、大規模噴火の降灰分布に包含される。

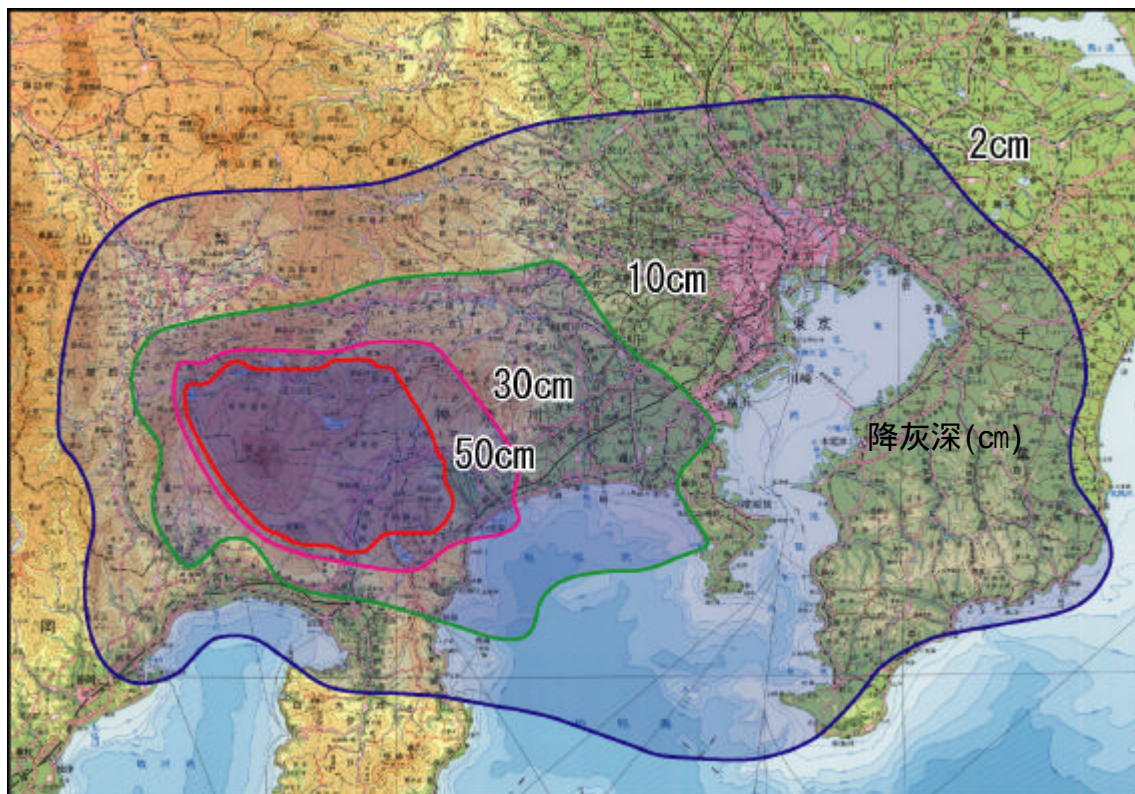


図 - 5.5.1 降灰可能性マップ